

授業概要

哲学とはどのような営みなのでしょう。哲学など自分とは無縁だと思っている人も、ひょっとすると、すでにどこかで哲学するきっかけを手に行っているかも知れません。なぜなら、「当たり前のこと」の中にこそ哲学の問題がひそんでいるからです。

この授業では、「差別」という具体的な問題について哲学的に考えることを通じて、実際に皆さんに「哲学」を体験してもらいます。差別についてはマスメディア等で盛んに語られているように思われます。「ヘイトスピーチ」に関する言及や、あるいは、ここ数年で話題となった「ブラック・ライヴズ・マター」という差別反対のスローガンを聞いたことのある人も多いのではないのでしょうか。その一方で、差別について語る際に前提となることから、例えばそもそも差別とは何であるのか、差別はなぜ悪いのか、といった点について、日本ではこれまでほとんど議論されてきていません。つまり、差別については、「なんとなく悪いもの」というところで思考停止し、根本的に考えることがなされてこなかったと言えます。そして、当たり前として見過ごされてしまいがちな問題について根本的に考えることを担うのが、哲学の役割なのです。

この授業では、差別という現代的で身近な問題を題材として取り上げ、分かったつもりになっていたり、思考停止してしまいがちな問題について、皆さんと一緒に根本的に考えていきます。

授業計画

第 1 回	差別とはそもそも何か①：差別と単なる区別との違い、差別是正をめぐる問題
第 2 回	差別とはそもそも何か②：ヘイトスピーチはどのような意味で差別なのか
第 3 回	差別とはそもそも何か③：いじめやハラスメントと差別との関係
第 4 回	差別はなぜ悪いのか①：心理状態説（差別する側の嫌悪の感情が悪いとする説）
第 5 回	差別はなぜ悪いのか②：害説（実害が大きいから悪いとする説）
第 6 回	差別はなぜ悪いのか③：自由侵害説（差別される側の自由を侵害するから悪いとする説）
第 7 回	差別はなぜ悪いのか④：社会的意味説（差別という行為の社会的意味ゆえに悪いとする説）
第 8 回	レポートの書き方（1）
第 9 回	差別はなぜなくならないのか①：事実による正当化の問題
第 10 回	差別はなぜなくならないのか②：配慮しているつもりが差別になってしまうという問題
第 11 回	差別はなぜなくならないのか③：科学との付き合い方の問題
第 12 回	レポートの書き方（2）
第 13 回	差別に対して実践的に何ができるのか：接触理論の試み
第 14 回	「外見差別（ルッキズム）」を考える
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	筆記試験（教場レポート形式）

到達目標

- 哲学の意義について理解を深め、学んだことを実践と関連づけられるようにする。
- 論理的に文章を書く力を養う。

履修上の注意

- 初心者から上級者まで広く受講できる授業です。高校倫理を履修していたかどうかは全く関係ありません。
- 授業内容についての質問は、基本的に、毎回授業前後に受け付けます。積極的な質問を歓迎します。
- 各回の内容は、進捗や理解度に応じて変更する可能性があります。

予習・復習

- 毎回の復習は必須です。復習の仕方については、授業でガイダンスします。
- 予習は必須ではありませんが、関心や余力のある人は、教科書の該当項目を予め読んでもらって構いません。

評価方法

- 平常点（出席点およびリアクションペーパーの内容の評価）50%
- 筆記試験（教場レポート形式、その場で提示された課題について論じる。）50%

テキスト

- 教科書名：差別の哲学入門
- 著者名：池田喬・堀田義太郎著
- 出版社名：文響社
- 出版年（ISBN）：2019年，978-4866511283
- その他、適宜プリントを配布する。